



SSH 通信



広島大学附属高等学校

SSH 通信作成委員

2025 年度 第 5 号

2025 年 11 月 11 日発行

皆さんこんにちは。2025 年度の SSH 通信作成委員です。この SSH 通信では、本校の SSH プログラムの 1 年間の活動をお伝えしていきます。第 5 号では、7 月に実施された Science Fair 2025 in Hiroshima（以下サイエンスフェア）についてお知らせします。



サイエンスフェアは 7 月 24 日（木）～25 日（金）の 2 日間で実施されました。サイエンスフェアには、本校の生徒（高校Ⅱ年生 AS コース全員と高校Ⅲ年生 AS コース参加希望者）に加え、本校の海外連携協力校に指定されているチョンチュンアン高等学校（韓国）、ムンサンスオク高等学校（韓国）、プリンセスチュアポンサイエンスハイスクールムクダハン校（タイ）の 3 校や広島県立広島高等学校の生徒が参加しました。

Day 1 では、広島大学東千田キャンパスにて、課題研究のポスター発表や広島大学大学院先進理工系科学研究科教授の志垣賢太先生による特別講義が実施されました。また Day 2 では、スタディ・ツアーが実施され、参加生徒は 3 つのコースに分かれてフィールドリサーチを行い、そこで得られた学びを最終的に全体で共有しました。

第 5 号では、ポスター発表（Day 1）とスタディ・ツアー（Day 2）に参加した生徒の声をお届けします。

<Day 1 ポスター発表：高ⅡAS コース全員・高ⅢAS コース参加希望者>

【概要】

ポスター発表は広島大学東千田キャンパスにある SENDA LAB で実施されました。全グループが奇数グループと偶数グループに分かれ、前半に奇数グループが、後半に偶数グループが発表を行いました。発表時間として 35 分が設けられており、その時間の中で聞き手の流れに応じて柔軟に発表や質疑応答を行うという形式でした。国際的なポスター発表なので、生徒は全員英語を用いてコミュニケーションを図りました。高ⅡAS コースの生徒にとって、この場が初めてのポスター発表の機会となりました。



【ポスター発表を経験して】

- ・サイエンスフェアを通じて、伝えることの難しさや嬉しさについて学びました。私は発表するときに頭が真っ白になり、仕方なくメモを見ましたが、その時の悔しさは今でも覚えています。それでも、私の英語が相手に伝わった時はとても嬉しく感じました。今後も失敗を恐れずに相手に伝える努力をしていこうと思います。
- ・韓国やタイの生徒たちの発表は、研究としての魅力を持つだけでなく、聞き手に楽しんでもらうためのエンタメとしても面白いものがたくさんあり、そういうのってありなんだ！と衝撃を受けました。特に印象的だったのは、韓国のネギを研究しているグループが、クイズの景品にネギチップスを配布していたことです。聞き手を惹きつける技術を幅広く学ぶことができた機会になりました。

<Day 2 スタディ・ツアー：高ⅡAS コース全員>

【概要】

スタディ・ツアーでは、生徒は研究分野の異なる 3 つのコース（宮島：生物、東広島：物理、霞：化学）に分かれてフィールドリサーチを行いました。複数の国の生徒でグループを作り、ツアーに出発する前に「グループで学びを象徴する写真を 1 枚撮り、それを 1 語（または 1 フレーズ）で説明する」という課題が出されました。ツアー中は各グループ英語を用いて意見共有を行いながら、終了後にグループごとで学びの成果を発表しました。

①宮島コース（生物）：宮島

宮島コースでは、韓国やタイの学生と共に、宮島の生物にまつわる講義を受講しました。その後、実際に宮島内を散策し、宮島に生息する様々な生物を観察しました。リアルタイムで解説していただき、気になったことがあればすぐに質問することができたので、普段は見逃しているような、身の回りの生物の神秘を学ぶことができました。

②東広島コース（物理）：広島大学デジタルものづくり教育研究センター → 広島大学東広島キャンパス

東広島コースでは、まず特殊カメラで 1 秒間に 1000 コマ以上の画像を処理し、対象の振動をリアルタイムで表示できるという技術などを学びました。その後、放射光科学研究所に訪れ、施設を見学しました。巨大なリングを電子が高速で回ることによって放射光が生まれるというシステムには驚きました。

③霞コース（化学）：広島大学霞キャンパス → マツダミュージアム

霞コースでは、医薬品から抽出した物質を特定する実験を行いました。高校にはない様々な器具の使用方法や、物質の性質に基づいた特定方法を知ることができました。専門的な事柄を英語で伝えることが難しく、もどかしい場面もありましたが、ジェスチャーも交えながら意思疎通することができ、貴重な経験となりました。

第 6 号では、夏休みに高ⅡAS コースを対象に実施された先端科学実習について紹介する予定です。